


ふりがな 氏名	しん ゆういちろう <b>新 友一郎</b>	都道府県	<b>兵庫県</b>	
所属/肩書	<b>兵庫県立加古川東高等学校 教諭</b>			
私のESD活動	<b>課題研究におけるヒートアイランド現象の観測実験と国際交渉の外交交渉模擬体験授業</b>			
ESD活動を表すキーワード	<b>コミュニケーション能力</b>	<b>環境</b>	<b>多文化リテラシー</b>	

**活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）**

私は高等学校の地理歴史科の教師として、日々の授業の中でESDに関わる活動をしています。その中でも、SSHに指定されている勤務校での課題研究で行っているヒートアイランド現象の観測実験と、昨年度に実践した神戸大学発達科学部と共同で実施した「Independence Day」という国際交渉の模擬体験授業に関して説明します。

まず、ヒートアイランド現象の観測実験は現在本校生徒2名と共に研究を行っています。生徒が居住している東播磨地域は海沿いの古くからの市街地域、郊外に残存する田園地域が帯状に広がります。田園地域と都市地域が隣接する地域において、ヒートアイランド現象の現状を解明することを目的としています。計測の過程では、実験装置の制作、自ら自転車を用いて計測をする手法など、生徒自らが主体的に取り組むことができるよう工夫をしています。また、海陸風と各地の気温の関連性を調べることで、ヒートアイランド現象の改善に向けた提言を行うことも視野に入れています。

そして、国際交渉の模擬体験授業は、戦後日本をモデルにソ連との冷戦構造や朝鮮戦争という国際情勢の変化も盛り込んで、生徒を日本側とアメリカ側に分け、双方ともに安全保障・経済などの面で自国により有利な条件で独立条約を締結するための交渉を行うという内容です。アクティブラーニングの側面もあり、生徒たちは真剣に考え積極的に相手と交渉をし、6つの班それぞれが独自の条約内容を締結しました。現代社会では経済発展段階が異なる国同士がお互いに持続可能な発達のためにどれだけ納得のいく同意ができるかが重要だと考えます。これからの世界をリードする生徒たちにとって大きな経験をさせることができました。

**ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？**

現在私が担当している生徒を見ていると、知識としては、環境、貧富の格差、人権などの世界的課題についてよく理解していると思います。しかし、それらの問題の解決という観点でいえば、インターネット上に氾濫する雑多な情報の影響を一方的に受けていて、十分なクリティカルシンキングを持って自分の考えを構築するまでは至っていないとも感じられます。国際社会で活躍するためにメディアリテラシーをしっかりと持って、地球規模の問題解決をできる人材育成を行う必要があると実感しています。狭義のナショナリズムに陥ることなく、地球規模の問題解決を図ることができる人材育成が今後のESD活動に必要なことだと思います。私が専門とする地理の授業を通して、世界的な視点を持って国際社会を主導する人材育成を図るための授業をしていくことが必要ですし、そのためにもESD活動を学校全体で教科横断的に進めることが必要だと考えています。